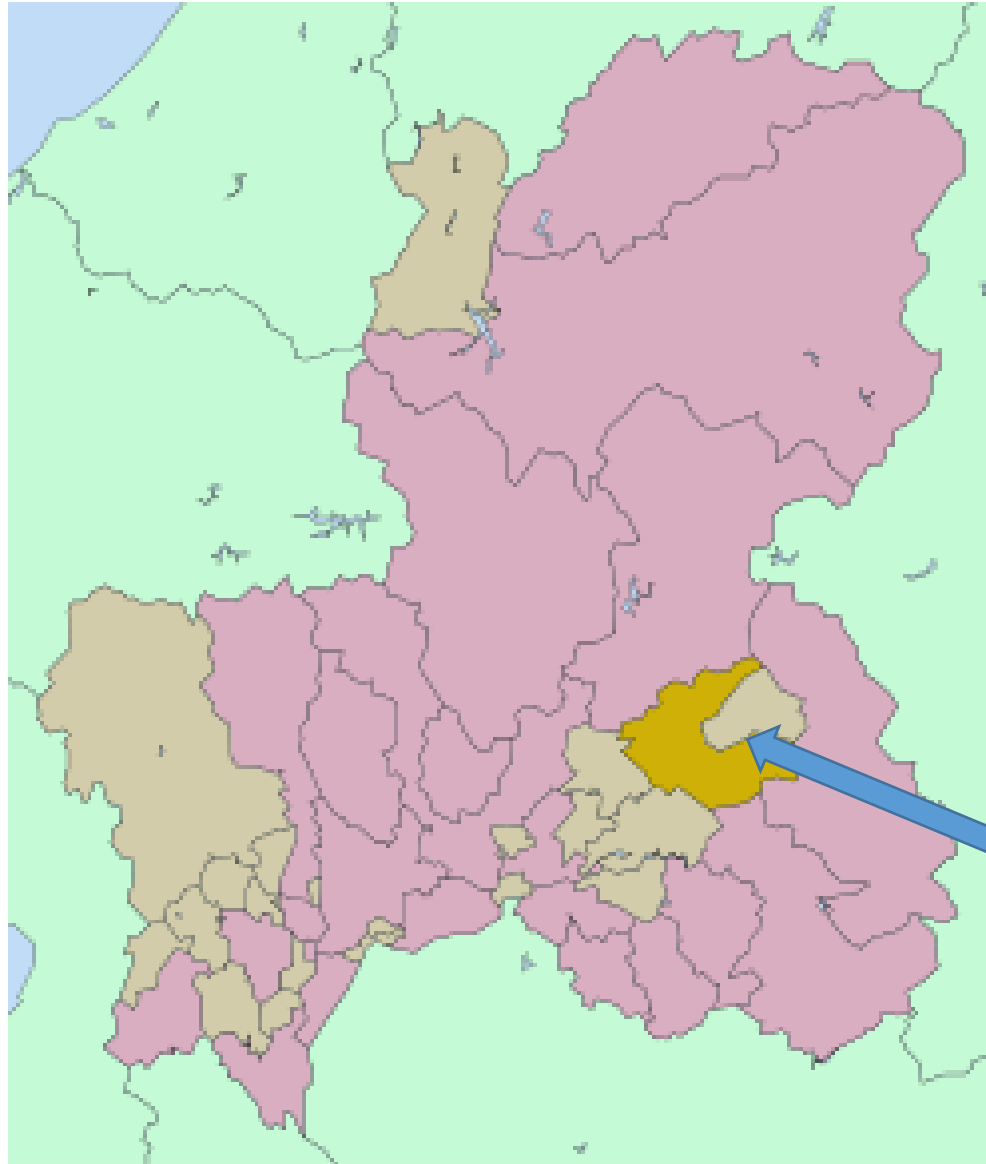


白川茶の新たな持続可能性

白川茶の特産品としての
保護と需要に応じた方向性

白川町の位置



50km

岐阜県加茂郡白川町

- 面積： 237.90km² (森林88% 農用地3%)
- 人口： 6,792人 (R 6 10.1現在)
- 標高： 180m~600m
- 平均気温： 13℃
- 気候： 最高気温、38.5℃ 最低気温、-5.2℃
- 年間降水量： 2,250mm


白川町



白川茶は山のお茶

- 国内のお茶の主産地の中では**自然環境の厳しい山間部**に位置しております。(北緯35度)
- 昼夜の**寒暖差**が大きい高地特有の気候です。
- 寒暖差の激しい山間部の環境により**成長はゆっくり**ですが、その分、**うま味や甘味が凝縮し、香り豊かな**お茶になります。





急峻な山間の地形、段々の石垣畑で慈くし
むように育てられた白川茶は**山間に立ち込
める深い朝霧が遮光と保温効果**をもたらし
ます。

ゆっくりと**旨み**を蓄えながら**山の風味豊かな
味と香り**を育みます。

新茶の季節に朝もやの中を散歩すると、お茶の香りが漂っています。

お茶の摘み取り（収穫）



JETRO岐阜の協力により（クールジャパン事業）マレーシア クアラルンプール伊勢丹One Utama店、The Gardens店の2店舗内「Japan Premium Grocery」にて、白川茶を販売開始しました。（2016年～）



販売に合わせ、白川茶の試飲イベントを開催しました。

↓ 白川茶の妖精、チャコちゃん



↑ One Utama店での白川茶イベントスペース ↑



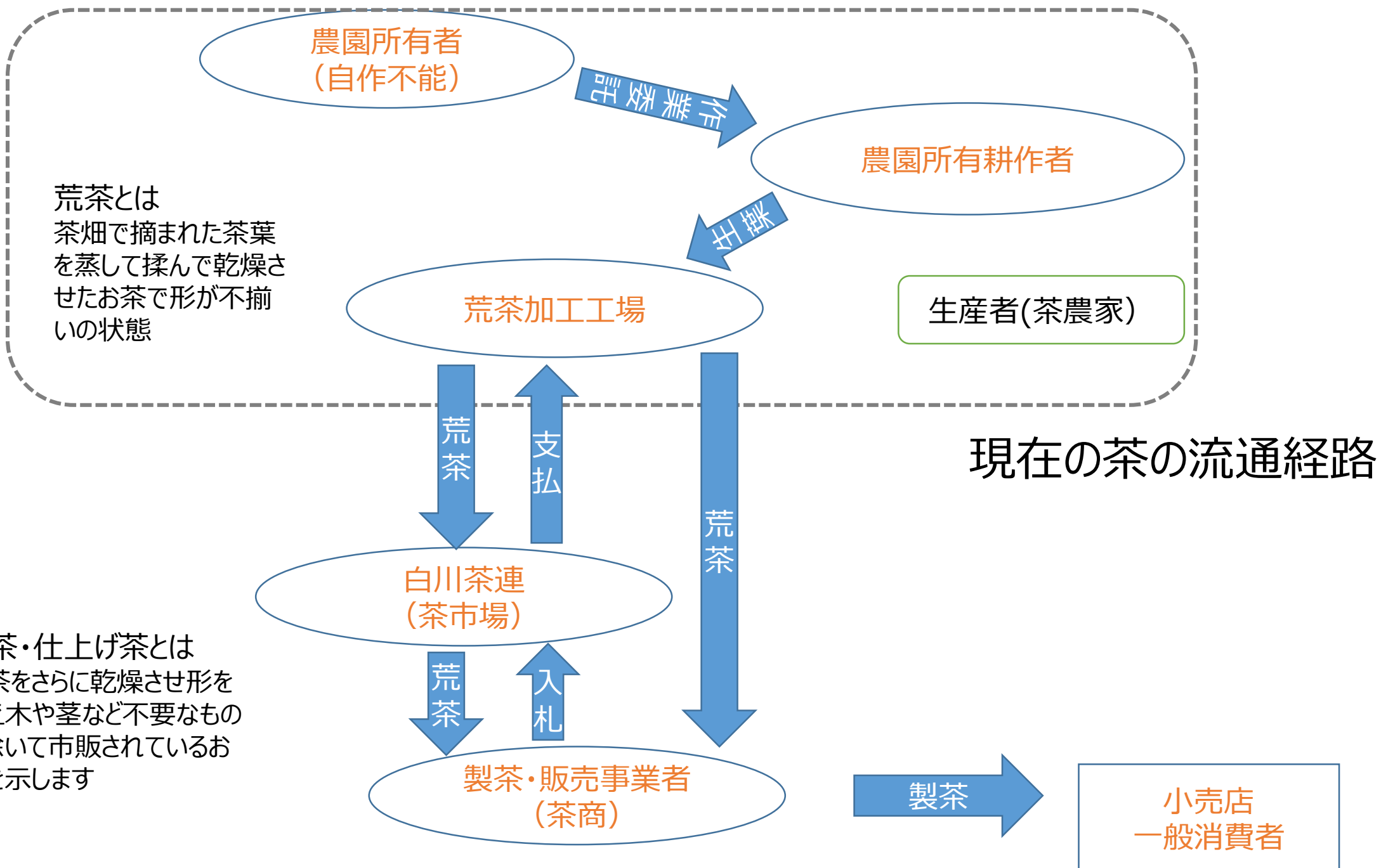
昇龍數位科技股份有限公司
及びSTUDIO-Aの協力のもと
台湾販売開始イベント
(2016~2019年)

・白川茶の現状 詳細

町内生産実績 R5年 (一番茶)		H25年比を100%として
茶園面積	54.7ha	51%
生葉生産量	202,352kg (158,901kg)	46% (48%)
荒茶生産量	44,311kg (36,097kg)	46% (49.2%)
共販実績量	15,716.7kg (12,465.7kg)	30% (30.5%)
組合員数	250名	43.7%

一番茶の初取引がR5年とH25年度の共販会取扱数量がほぼ同じである比較してみるとH25年は平均単価が5,104円、R5年は4,251円であり853円低くなっている。

茶園面積について後継者不足もあり年々減りつつあり、閉鎖する茶組合も増加している。



農園所有者
(自作不能)

行株券記

農園所有耕作者

出稼

荒茶加工工場

生産者(茶農家)

現在の茶の流通経路

荒茶

支払

白川茶連
(茶市場)

荒茶

製茶・仕上げ茶とは
荒茶をさらに乾燥させ形を
整え木や茎など不要なもの
を除いて市販されているお
茶を示します

荒茶

入札

製茶・販売事業者
(茶商)

製茶

小売店
一般消費者

荒茶とは
茶畑で摘まれた茶葉
を蒸して揉んで乾燥さ
せたお茶で形が不揃
いの状態

白川茶の問題点

生産農家の問題点

1. **生葉買取単価が安い**

- 買取価格が低いため、採算が取れない。お茶は肥料をたくさん必要とするが購入資金に影響

2. **高齢化による後継者不足**

- 若い世代が茶業に従事せず、後継者がいない。

3. **管理作業者の不足**

- 作業を行う人手が不足し、茶園管理が困難。

4. **平均所有面積の小ささ**

- 所有面積が小さいため、経費が収入に対して大きな負担となる。

5. **畑の不整形と急勾配**

- 管理が難しく、労力が必要なため省力化が進まない。

6. **荒廃への抵抗感**

- 荒れた茶園の再利用に対する心理的抵抗が強い。

茶生産組合の経営に関する問題点

1. **役員の高齢化となり手不足**

- 組合の役員や加工者の高齢化が進んでおり、新たな人材が見つからない。

2. **売れ残りや低価格のプレッシャー**

- 荒茶の販売において、売れ残りや価格が上がらないことが課題。

3. **設備の老朽化**

- 更新資金が不足しており、運営の不安要素となっている。

4. **加工量の減少**

- 茶農家が減少することで加工量が減り、固定費が増加して収支が悪化。

5. **売上げ補償の不在**

- 嗜好品であるため、売上げの保障がない。

6. **生産地の広さ**

- 組合間の合併が進まない要因として、生産地が広くて連携が難しい。

販売に関する問題点

1. **リーフの需要減少**

- 高齢者に多くの需要があるが、人口減少に伴い茶の消費量が減少。

2. **葬式形式の変化**

- 香典の需要が減少し、従来の茶の利用シーンが減少。

3. **一番茶の仕入れ負担**

- 一年分の茶を一番茶の時期に仕入れる必要があり、経営的な負担が大きい。

4. **ギフト需要の低下**

- お中元やお歳暮など、伝統的なギフト需要が減少している。

5. **新茶の魅力の薄れ**

- 新茶としての差別化や魅力が不足している。

その他考慮事項

1. **加工と販売の支援**

- お茶は消費者に届くまでに加工が必要なため、生産者への支援と販売者への出口支援が不可欠。

2. **観光と体験型のニーズ**

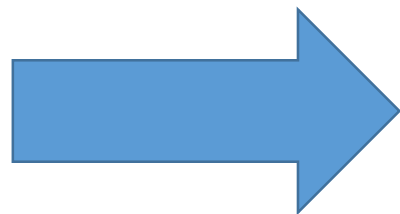
- 体験型の観光ニーズはあるが、生産者と販売者の連携が必要で、それらをつなぐ人材が不足している。

3. **有機栽培のハードル**

- 生産、加工、仕上げ、袋詰めにそれぞれ認証が必要であり、統合的に行うのが難しい。

白川茶の現状（課題の整理）

- 茶葉の需要の低迷
- 茶価（リーフ）の低迷
- 高齢による離農
- 茶工場の経営悪化



- 農家所得の減少
- 耕作放棄地の増加
- 品質の低下
- 還元率の低下・解散

生産意欲の低下・茶業経営の衰退・行き詰まり

生産体制の再構築

- 荒茶生産工場の集約
- 採算性の高い圃場の保護
- 需要に対応した必要とされる茶生産体制
- 肥料管理による品質の確保
- △採算性の低い圃場の再利用
- △荒廃茶園の転換作物の検討、転換作物の実施計画策定
- △自然栽培又は有機栽培による生産
- 紅茶生産の高品質化（中山間地農業ルネッサンス事業）

販売体制の再構築

- 生産現場と相場に左右されない価格で買取、安定した生産体制に協力
- お客様の求めているお茶の情報を共有し必要とされる商品づくりと提供
- 販売先の多様性を考える
- インバウンドを含めた需要に対応した体験メニューの創設
- 的確な行政支援と法人とのタッグ
- 圃場の再利用した転換作物商品の営業、加工所の建設

白川茶の方向性

出口対策の検討

希少な価値を伝えファンを増やす

高級路線への地域のブランディング

インバウンド需要の構築

多様な白川茶との交わりを増やす

生産時の労働支援

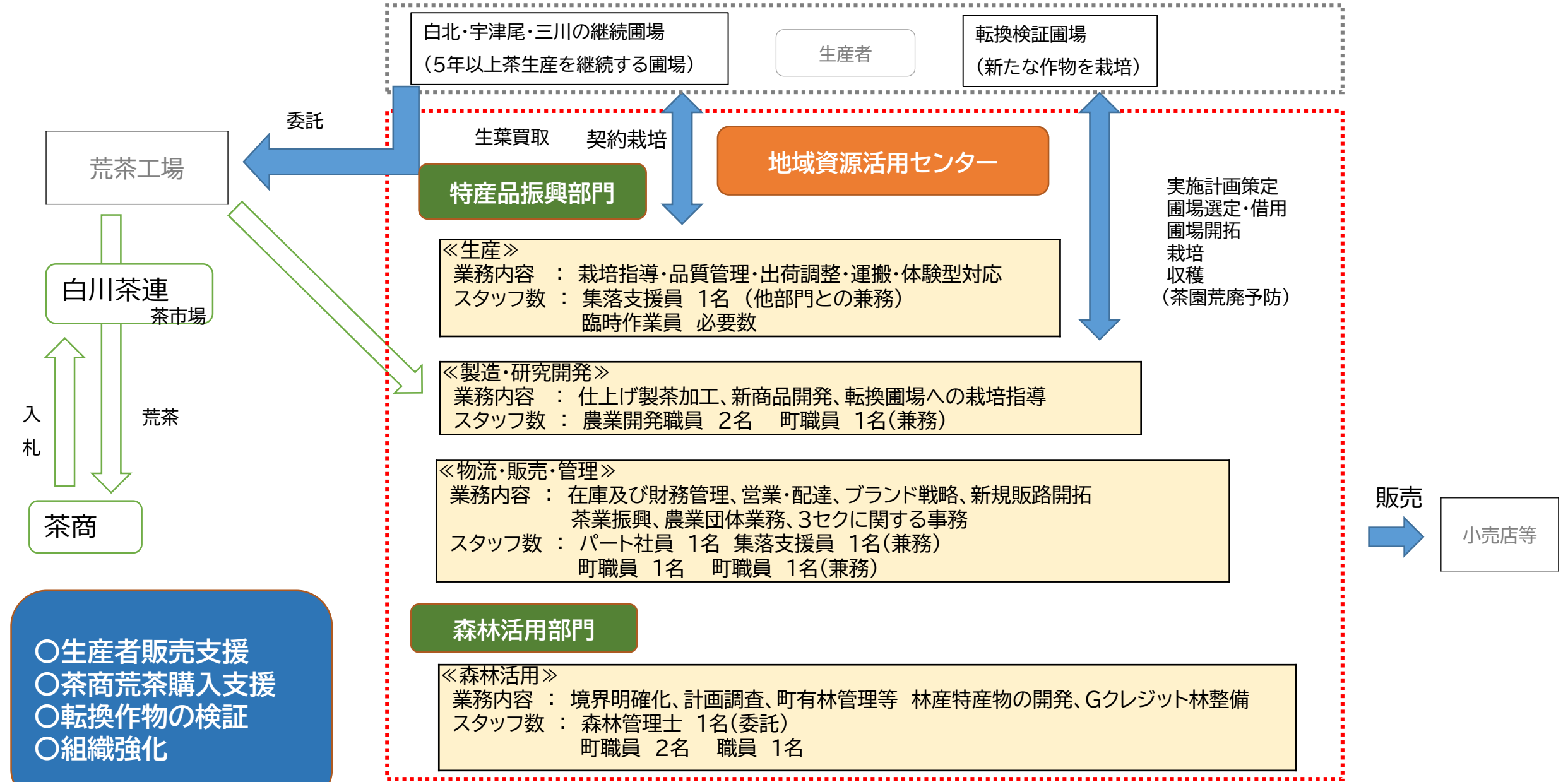
転換作物の検証

採算性の低い圃場の再利用

荒廃茶園の転換作物の検討

圃場の再利用した転換作物
商品の営業

地域資源活用センター組織構成について



- 生産者販売支援
- 茶商荒茶購入支援
- 転換作物の検証
- 組織強化

☆スタッフ数 白川町農業開発 >>> 社員2名 集落支援員1名アルバイト数名
白川町役場 >>> 職員3~4名 森林管理士1名 会計年度1名

こんなヒト・企業様と 出会いたい

白川茶の価値を共に高めていっていただける企業様

例 販売パートナー ホテル 旅館

白川の地域を共に盛り上げて頂けるパートナー

例 インバウンド向け旅行会社 イベント企画会社

地域の商品やサービスを一緒に考えてもらえる方

例 加工事業者 食品会社

地域の景色を未来に残すために
ご協力頂ける皆様をお待ちしております。

